

# 中級前期日本語学習者を対象とした正確に情報を聞き取る ための聴解指導

## —「J631 聞く」授業報告—

石田 麻実

### 要 旨

本報告では2011年度1学期から3学期の筑波大学留学生センター技能別中上級コース「J631 聞く」の授業を概観する。対象者は、中級前期日本語学習者である。到達目標は、日本語を正確に聞き取る力を伸ばすこと、会話の聞き取りに必要な基礎的な能力を養うことである。後者の詳しい目標は、①主に身近な話題についての会話から、必要な情報を正確に聞き取ってメモ取りができる、②会話の流れを理解することができるという2点である。到達目標を目指し、1回の授業は、ディクテーション、基礎練習、主教材の3つの柱で行っている。主教材では、身近なトピックから主に情報取りの練習を中心に行った。学習者からは様々な練習を通し、弱点が自覚できたという声もあった。

【キーワード】聴解、中級前期日本語学習者、会話、情報取り、トピック

## Report on Training for Accurate Listening Skill for Intermediate Level (J600 level) Students

ISHIDA Mami

【Abstract】 This is an overview of the intermediate listening class (J631 “Kiku”) in the International Student Center in Tsukuba University. The target of this class is intermediate level Japanese learners, and its goals are increasing their accurate listening skills and developing listening skills for obtaining necessary information through conversations. The details of the second goal are : 1) getting the necessary information and taking notes while listening to daily conversations, and 2) understanding the flow of the conversation. There are three main drills in this class—dictation, basic training (for numbers, honorifics and phonological changes) and catching the main topic. In listening for the main topic, we handle various daily topics and do listening drills to improve students’ abilities to get the necessary information. As a result of these drills, some students said that they became aware of weak points in their listening skills.

【Keywords】 listening skills, intermediate level Japanese learners, conversation,  
listening skills for getting necessary information, topic

## 1. はじめに

筑波大学留学生センター補講コースでは、日本語中上級レベルの学習者を対象とした技能別日本語コースが開講されている。「文法」「話す」「聞く」「読む」「書く」の各技能で、中級初期、中級前期、中級中期、中級後期、上級の5つのレベルに分かれている。各技能のうち、「聞く」では、各レベルの担当者が到達目標および学習項目に基づいた授業計画、教材作成を行っている。授業では、「ディクテーション」「基礎練習」「主教材」の3つの活動を全レベルで取り入れており、レベル間の活動内容および学習項目につながりを持たせている（関ほか、2013）。

本稿では、2011年度1学期から3学期の中級前期日本語学習者を対象にした聴解授業（以下、「J631 聞く」<sup>1)</sup>）の報告をする。学習者は、筑波大学留学生センターの日本語補講コースの各レベルを経て進級してきた学習者、学期開始時のプレースメントのテストを受けて600レベルと判定された学習者がいる。後者は、自国などで既に日本語の学習をしている学習者のことである。「J631 聞く」の授業の到達目標は、日本語を正確に聞き取る力を伸ばすこと、会話の聞き取りに必要な基礎的な能力を養うことである。後者では、①主に身近な話題についての会話を聞いて、必要な情報を正確に聞き取り、メモをとることができる、②会話の流れを理解することができることを目指す。

## 2. 受講生について

各学期の受講生の人数と国籍は以下の表1の通りである。

表1 各学期の受講者数

学期	受講者数	国籍
2011年度 1学期	29名	中国12、ドイツ3、アメリカ2、ウクライナ2、韓国1、イギリス1、インドネシア1、ウズベキスタン1、カザフスタン1、コスタリカ1、台湾1、メキシコ1、ラトビア1、ロシア1
2011年度 2学期	46名	中国36、ベトナム2、韓国2、エジプト2、台湾1、リトアニア1、ベラルーシ1、モーリタニア・イスラム1
2011年度 3学期	65名	中国40、韓国6、カザフスタン4、台湾3、キルギス2、ポーランド2、インドネシア1、オーストラリア1、ネパール1、ハンガリー1、ブラジル1、ベトナム1、ラオス1、ロシア1

## 3. 授業の概要

授業は、週1回75分で各学期10週（10回）が通常であるが、2011年度2学期のみ9週（9回）であった。初回は「聞く」全クラスでレベルチェックテストを行っている。その結果から、あまりにもレベルと合っていない学生には個別に対応している。最終である10回

目は「聞く」クラス全体で期末試験としているため、実質の授業は9回（2011年2学期のみ8回）であった。学期開始時と学期終了時にはアンケートを行った。

授業内容は日常的なトピックについての会話（dialogue）を主に聞き、必要な情報を正確に理解できるよう以下の練習を行った。

- ・会話を聞いて内容理解を確認する質問に答える。
- ・会話から必要な情報を聞き取り、メモをとる練習をする。
- ・部分的にディクテーションを行い、正確に聞き取る練習をする。
- ・語彙リストを使用し、理解できる語彙を増やす練習をする。

会話の聞き取りに必要な基礎的な能力を養うために以下のことを行った。

- ・会話から人間関係（親疎関係、上下関係）を考え、上下、親疎などのことばの使い分けを学ぶ。敬語の聞き取り練習も行う。
- ・話し言葉での基本的な音変化の理解と聞き取りを学ぶ。
- ・単純な数字（大きい桁の数字、小数点がある数字も含む）を正確に聞き取る練習。また、助数詞、序数詞、割合を表す表現も聞いて理解できるようにする。中級中期以降のクラスでは、聞き取った数字が何を表しているのかを中心に数字の聞き取り練習を扱っている。「J631 聞く」では、その土台となるべく数字自体を正確に聞き取る練習を行っている。

### 3.1 授業の流れ

レベルチェックテストを行う初回と期末テストの最終回以外は、毎回以下の流れで授業を行っている。＜1回の授業の流れ（75分）＞

1) ディクテーション(10分)

2) 基礎練習(15分)：「J631 聞く」では数字、親疎、音変化を扱っている。

3) 主教材(50分)：日常的な会話（トピック例：「電話」）を聞き、タスクシートに主にメモ取りをする練習。毎回異なったトピックを聞く。会話が中心であるが、ニュースを簡単にしたスクリプトを作成し、教師が録音した独話を聞くこともある。

「J631 聞く」では予習は前提としていない。なぜなら、実際、学習者の日常生活では、日本語を聞く際、その場で処理しなければいけないことが多いからである。そのため、授業で初めて聞かせて、練習を行っている。筆者は、授業で聞いて、わからないところや間違ったところは時間をおかず、解決したほうがいいのではないかと考える。また、中級前期の段階では、復習型の授業のほうが適しているのではないかと考える。そのため、授業で使うものは事前に電子ファイルも音声ファイルも配布していない。授業が終わった時点で、その日の授業で使った教材を復習としてISC Class Library<sup>2</sup>にアップロードしている。宿題は、授業の復習としている。スクリプトの穴埋めなどを課すこともある。

### 3.2 教材について

教材は、基本的にクラス担当者<sup>3</sup>が作成している。ディクテーションは文を作成、音声録音したものを使用している。基礎練習、主教材についても同様である。しかし、主教材、基礎練習は発行されている教材を参考にし、スクリプト、タスクシートを教師が学習項目に合うように修正して使用することもある。

### 3.3 評価について

「聞く」では、評価方法は5つのレベルで統一している。出席率60%以上の学生が評価対象で、評価は期末試験のみで決めている。評価はAが80%以上、Bが70%~79%、Cが60%~69%でここまでが合格、60%に達していない場合はD（不合格）となる。「J631 聞く」の期末試験では授業で扱ったものの中から約6割、初めて聞くものを約4割入れている。期末試験で60%に達しない場合は、次のレベルへ行くことは適当ではないという考えから宿題などは評価に加味していない。

## 4. 授業内容

この章では、3.1の<1回の授業の流れ>にある1) ディクテーション、2) 基礎練習、3) 主教材について詳しく述べる。

### 4.1 ディクテーション

ディクテーションは全8回である。初回に学習者にディクテーションシート（1学期分）を配布し、毎回持ってくるように指示している。毎回3文実施している。3文のうち、1、2文は前回の授業で聞いたことがあるものを基に作成しているが、1文は必ず聞いたことがない新しい文を入れるようにしている。ここで、中級以降で必要となってくる語も導入し、使い方も学べるような文をディクテーションさせるようにしている。ここで、語の使い方を説明することもある。また、学習者にとって聞き取りにくいとされている、特殊拍が入った語、カタカナ語なども意識的に取り入れている。手順は、1文を3回ずつ聞き、3文聞き終わったところで、学生から、聞き取った文を言ってもらう。その際、文全部を聞き取れない場合は多々ある。その際は、聞き取れた部分だけでも答えてもらうようにし、その他に聞き取れた部分を他の学習者に発言してもらい、クラスで1文を作ることもある。1文ができた時点で、パワーポイントで解答を見せ、再度教師が読み上げる。文の漢字にはふり仮名をつけてあるが、解答を書く際、漢字で書ける語は漢字で書くように指示している。パワーポイントで、文を見せながら、教師は注意しておいてほしいポイントに印をつけ、説明を加える。学習者は、ディクテーションシートに書いた文をセルフチェックする。その際、必ず間違えたところは消しゴムなどで消さないで、色ペンなどで訂正し、

間違ったところが後でわかるようにしておくよう初回に指示している。学習者にセルフチェックをさせているが、3回に1回ディクテーションシートを提出させ、教師がダブルチェックをするようにしている。間違えたところを消さないように指示しておくのは、学習者自身が後で間違えたところがわかるようにするためと、教師側が学習者の間違いやすいところをチェックするためでもある。2011年度1学期から3回に1回の教師のダブルチェックをするようにしたが、思ったよりセルフチェックで訂正できていないところがあることに気付いた。特に長音・促音が含まれているかの区別、濁音か清音かの区別、カタカナ語、助詞がセルフチェックできていないことが目立つ。このチェックは続けるようにしている。アンケートでは、ディクテーションで自分の聞き取りの弱いところがわかって役に立ったという意見もあった。

## 4.2 基礎練習

「基礎練習」は「聞く」5つのレベル全てにおいて取り入れている。これは、継続して行うことにより学習効果があるという認識のもとにある。「J631 聞く」の基礎練習は、①数字の聞き取り練習、②親疎の聞き取り練習、③音変化の理解と聞き取り練習の3つを取り入れている。3つの実施回数は、1学期のみ、数字の聞き取り練習を3回、親疎・人間関係を2回、音変化を3回だったが、J631では、会話の聞き取り能力を養うことが主な目的であることと、学習者のアンケートから2学期以降は数字を減らし、親疎・人間関係を増やした。2学期、3学期は数字2回、親疎・人間関係(敬語)3回、音変化を3回にしている。

### 4.2.1 数字の聞き取り練習

数字の聞き取り練習は、①単純な数字の聞き取り、②助数詞、序数詞、③その他の数字の言い方を取り入れている。以下に、それぞれ詳しく述べる。

#### ①単純な数字の聞き取り

大きい桁の数字や小数点などを扱った。特に数字の聞き取りが苦手な学習者、特に母語から、数字が3桁ごとに単位が変わることに馴染みがある学習者には、日本語の数字は4桁で単位を区切って聞くように意識させた。つまり、4つで1つの単位(千単位)で考え、「万」「億」と言うことばが出てきたら注意するようにと指導した。4つで聞くことを意識化できるようプリントを作成した。また、電話番号を利用して日本語のリズム、拍感覚を考える練習を行った(例:2, 5を他の数字の拍数に合わせて「にい」「ごお」と2拍で発音するなど)。日本語の拍感覚は、日本語を正確に聞き取る際に必要である。学習者に自国または町の人口を調べておくように言い、次の時間にグループで人口を聞き合い、聞いた人口はシートに書いておき、グループで答え合わせをするという練習も行ったが、学習者同士での数字の聞き取りはなかなか難しいようだった。

## ②助数詞、序数詞

学習者が既に知っているものもあるので、こちらから知識の導入ではなく、学習者にどんな助数詞を知っているか出させて、クラス内で知識を共有する。それから、助数詞、序数詞が入った会話を聞いて、表を完成させたり、文の穴埋めをする練習をした。

## ③その他の数字の言い方

「いちおくとんでななじゅうごまん」と学習者が聞いたら、恐らく「とんで」のところで、混乱して後の数字が聞き取れなくなってしまうだろう。数字の間に「ゼロ」があるときに「とんで」ということがある。これは、知らなかったらわからないことである。「とんで」と聞こえたら、ゼロがくるのだと知っていれば、「1億75万」と聞き取れるはずである。このような数字の言い方も紹介した。また、割合を表す表現として、「～割」の他に「4人に1人」、「3人に2人」という言い方なども紹介した。

### 4. 2. 2 親疎関係の聞き取り

親疎は、①敬語の聞き取り練習、②会話を聞き、人間関係（親疎関係、上下関係）を考え、上下、親疎などのことばの使い分けを学ぶ練習をしている。

#### ①敬語の復習

『わくわく文法リスニング』（小林ほか，1995）の第68課を使用し、尊敬語と謙譲語の聞き分け練習と、聞いた敬語を元の動詞に戻す練習を行った。初級の聞き取り教材だが、中級前期学習者でも聞いた文にある尊敬語や謙譲語の元の動詞にすることは難しいようだ。敬語を聞いてすぐ反応できる力を「J631 聞く」コースの前半で持っている学習者は少ない。

#### ②会話を聞いて人間関係を考える練習

短い会話を聞いて、どんな関係か推測させる練習を行った。その際、なぜそう考えたのについても答えさせる。敬語やスピーチスタイル、終助詞などに注目させるようにしている。ここで、敬語の復習も行う。教材例としては、『Situational Functional Japanese Volume 3: DRILLS』（筑波ランゲージグループ，1995）（以下、『SFJ vol.3: DRILLS』とする）のL18 Task and Activity「ハワイからのおみやげ」の図を参考に、スクリプトを変えて少々難易度を上げたものも使用している。

### 4. 2. 3 音変化の理解と聞き取り

会話を聞き取る際に重要となってくるのが、音変化である。特に日本に来たばかりの学生には聞き取りにくい。オリエンテーションで、例に出すのは「私んち」と言って、何を意味するかわかるかと聞くと、20名超えているクラスでも1, 2人答えられればいほうで、誰もわからないときもある。「私のうち」は全員が知っているだろう。しかし、「私んち」と聞いたら、何のことかわからなくなってしまう学習者が多いのではないか。音変化

については、元の形に直せばわかるが、会話で音が変わったために聞き取れないことがあるということ、知っていれば聞き取れるということ、まず意識化させている。しかし、作文などでは使わないということは注意している。「J631 聞く」では、次の3つの比較的易しいものを取り上げている。①「い」の脱落、②「～てしまう」→「～ちゃう」、③撥音化（3つのパターン）の音変化の理解と聞き取り練習を行っている。音変化は知識の確認、練習の流れで行っている。練習で使う文は日常生活で使われそうな文を聞き取らせるようにしている。以下、それぞれの内容について詳しく述べる。

#### ①「い」の脱落

「～ている」が「てる」に、「～ていく」が「てく」になることをまず音を聞かせて確認する。前者は多くの学習者が知っているが、後者については、授業前に未習の学習者もあるようだ。さらに、「ていく」が活用して、「い」が脱落した形になると聞き取れなくなる学習者が多くなる。練習は、音変化した短文「持ってけばいいですよ」を聞いて書きとり、それを元の形「持っていけばいいですよ」に直す練習を何問かする。音変化した「うちでご飯食べてって」に促音が含まれていることに気付かず、元の形「食べていて」が書けなく「食べていて」と間違えてしまう学習者も多かった。「食べていて」は「食べてて」の元の形であり、意味も変わってしまうことに気づかせた。

また、注意として「ていきます」（ます形）のときは、「い」が脱落しないことにも触れている。その理由は学習者に考えさせるようにしている。学習者から、「～て来ます」とどちらかわからなくなるからという答えが返ってくることがほとんどである。こちらから、ただ知識を与えるだけにならないよう、学習者に考えさせるようにしている。

#### ②「～ちゃう」

「～てしまう」が「～ちゃう」になるのは、学習者はよく理解しているが、「～ちゃう」が動詞のように活用するということはあまり知らない。まず、音を聞かせて文字で確認。その後、「～ちゃう」のいくつかの活用した形を聞かせて、ルールがあるか考えさせる。簡単にはいかなく、1グループの動詞で「う」で終わる動詞（例：「買う」など）と同じ活用という答えはなかなか出てこないが、ヒントを与えながら考えさせる。「ちゃう」の活用をプリントで確認した後、練習に入る。そこでは、①と同じ手順で音変化した文を聞いて書き、元の形を考えて書くという練習をしている。「先にやっちゃわない？」「書いてやわなければなりません」などは特に聞き取りに間違いが多い。話し言葉でも音変化を使うと、必ずカジュアルになってしまうと勘違いしている学生は多い。例えば「先にやっちゃいましょう」だったら、カジュアルではない。文の最後が「です・ます体」であれば、カジュアルにならないという情報は、学習者には新鮮のようだった。

#### ③撥音化

授業での手順は①②と同じである。以下の3つを扱った。

i) 「～らない」→「～んない」: グループ1で終わる動詞の否定形

例) わからない→わかんない

ii) 「～られない」→「～らんない」: グループ2, 3の動詞の可能形の否定形など

例) 「食べられない」→「食べらんない」、「来られない」→「来らんない」

iii) 助詞などの「の」→「ん」の変化

例) 「あの人んち行く?」→「あの人のうち行く?」

ここで、オリエンテーションで出した「私んち」→「私のうち」も例に出す。「私んち」だけでなく、「友だちんち」「～さんち」などにもなることも説明する。特に「～のう(家)」や「ここの」「そこの」などの「の」が「ん」になりやすいことも説明する。

#### 4. 2. 4 基礎練習の学期ごとの改善点

まず、数字の回数を減らしたことである。主教材でも数字の聞き取りは入れられることと、会話の聞き取りには、基礎練習で親疎関係や音変化の回数を増やしたほうが良いと考えたからである。そして、学生のアンケートでの回答も取り入れた結果である。

また、基礎練習の順番も学期ごとに変えた。どのような順番でやったら、学生に効果があるのだろうか。1学期、2学期は、数字、親疎、音変化というように、順々に回していったが、3学期は音の変化なら音の変化で3回通してやるようにした。音変化は通して集中的にやったほうが良いようだ。その理由は、会話では音の変化は多く出てくるので、コースの始めのほうに集中的にやったほうが、早い段階から主教材での会話を聞く際にも音変化を意識して確認することができるからである。また、数字より、すぐ会話の聞き取りの向上に直結しやすいと考えるからである。そして、学習者が会話での聞き取りで音変化に興味を持っていることは学期末のアンケートで分かったので、興味を持った時点である程度通してやったほうが、時間を置いて扱うよりいいのではないかと考えた。さらに、基礎練習の教材のボリュームについては学期ごとに検討した。

#### 4. 3 主教材

主教材は、教師がタスクシート、スクリプト(音声録音)を作成したものがほとんどである。毎回異なったトピックの日常的な会話を聞き、タスクシートに主にメモ取りをする練習を行った。会話が中心であるが、ニュースを簡単にしたスクリプトを作成したもの(音声録音)独話を聞き、表を完成させる練習もした。完全に教師オリジナルのものもあるが、『SFJ vol.3: DRILLS』のTask & Activity (以下、T&Aとする)を参考に修正したものも少なくない。『SFJ vol.3: DRILLS』のT&Aのトピックは身近で社会的なものが含まれているため、読みタスクのトピックを聞きタスク用に作り直したり、また、データを新しくしたりした。また、あるトピックの会話のスクリプトを参考に、『J631 聞く』用にスク



リプトで使用する語や会話の長さを変えたり、スクリプト自体新しく作成したりもした。また、タスクシートも参考にした。主教材で扱ったトピックは「電話」「社会で成功する要因」「健康と病気」「地震」などである。タスクシートには聞く前にスキーマの活性化をさせるために、トピックに関わることについて考える項目を設けた。下に、主教材の例を示す。

(＊実際の教材例については資料1, 2, 3, 4を参照)

#### ＜主教材例①：「電話」資料1, 2参照＞

教師作成（スクリプト作成、音声録音）

- ・様々なタイプの電話の会話を聞く。敬語が多く入った会話を聞く練習。
- ・重要な電話での会話では繰り返し確認が行われていることに気付かせる。
- ・必要な情報をメモする練習。（だれが、だれに何をしたのかなど）  
人に渡す用の伝言メモと、会話の中の人物だったら、どの部分を重要な情報としてメモするかという自分用のメモをとる練習も入れた。
- ・「名前」「日付、日時」の聞き取り練習も入れた。

#### ＜主教材例②「健康と病気」(資料3, 4参照)

『SFJ vol3: DRILLS』L21 T&A 3. 「あなたのヘルシー度チェック (読みタスク)」と、L22 T&A 4. 「日本人の死因 (読みタスク)」を参考に、教師がスクリプトを作成 (音声録音)

- ・質問を聞いて、自分のヘルシー度チェックをする。
- ・日本人の死因についてのニュース (独話) を聞き、必要なことばを聞き取りスクリプトの穴埋めをする。また、数字を聞き取り、情報を整理して、表を完成させる。
- ・2つの日本人の死因の変化に関する会話を聞いてメモを簡潔にまとめる。

### 4. 4 主教材の実践例

主教材の実践例を以下に2つ示す。

＜実践例①トピック：「電話」＞ 活動時間：約50分 (資料1, 2を参照)

活動の流れ：タスクシートの配布。

↓

①聞く前に：日本語での電話で困ったこと、なぜ電話の会話が難しいのか、聞き取れない場合はどうするのかなど、電話での会話について考えさせる。

＜目的＞スキーマの活性化

↓

②練習1：電話での会話を聞き、伝言メモを完成させる。名前も漢字で書く。

＜目的＞電話での会話から、重要な情報を正しく聞き取り、メモにまとめる。

(だれから、だれに電話をしたのか。用件の内容を正しく聞き取る)

③活動1：自分の名前の説明のしかたを学ぶ。名前を言って、クラスメートに書いてもらう。聞き取ってもらえない場合はどのように説明したらいいか考える。

④練習2：自分が電話をかけた者として聞き、自分用のメモを完成させる。

＜目的＞自分が電話をしたとき、相手から必要な情報を聞き取り、自分のためにメモが取れる。様々な敬語を聞く。重要な情報は確認すること、聞き取れない場合はどうするかについて学ぶ。

↓

答え合わせ。重要な情報は何だったか、学生から答えさせる。

↓

⑥敬語：スクリプトをパワーポイントで表示（学生には配布）。

どのぐらい、またはどのような敬語が使われていたかチェックさせ、注意させる。

⑦まとめ：スクリプトを見ながら音声を聞き、目と耳で確認する。

重要な箇所は説明、語彙リストで確認、復習の指示。

↓

授業終了後：ISC Class Libraryに音声ファイルを教師がアップロードする。

＜実践例②トピック：「健康と病気」＞ 活動時間：約50分（資料3, 4参照）

活動の流れ：タスクシートの配布。

↓

①聞く前に：ヘルシー度チェックの質問を聞いて○か×で答え、現在の心と体の状態を知る。ストレス解消法についても話題にする。

＜目的＞スキーマの活性化

↓

②練習1：日本人の寿命と死因に関する調査結果（独話）を聞いて表を完成する。

表1) 日本の平均寿命

表2) 日本人の死因別の死亡者数

＜目的＞数字の含まれる文を聞き、数字を正確に聞き取り、聞き取った情報が整理できる。

↓

答え合わせ：学習者から出た答えをタスクシートに入力し、スクリーンで表示。クラスで適当か考える。

↓

- ③活動 1 : 完成した表からわかることを話し合う。そして、死因が変化している原因を出し合う。

<目的>スキーマの活性化 (次の会話を聞く準備)



- ④練習 2 : 日本人の死因が変化した原因について話している会話を 2 つ聞き、それぞれについて、表にまとめる。

<目的>インタビューの会話を聞いて、何について話しているか把握し、必要な情報を聞き取り、メモをとる。



- ⑤活動 2 : 練習 2 でメモした内容をペアで報告しあう。



- ⑥まとめ : スクリプトをパワーポイントで表示。学生には配布。

スクリプトを見ながら音声を聞き、目と耳で確認する。

重要な箇所は説明。語彙リストを確認。復習の指示。



授業終了後 : ISC Class Library に音声ファイルを教師がアップロードする。

## 5. 今後の課題と改善点 (おわりに)

全10回のうち1回がテストになってしまうので、実質、「J631 聞く」の授業は9回ということになる。この75分×9回で、どの程度学習者の聞く力を伸ばすことができるのだろうか。2011年度は、「1. はじめに」述べた到達目標に向けた授業設計をしてきた。教材のレベルについて、前年度2010年度担当時のコース終了時アンケートで「やや易しかった」という回答が多かったのが反省点であった。2011年度は3学期間を通して「ちょうどよかった」と回答している学習者が多かったので、教材の難易度の問題は改善されつつあるように思う。2011年度「J631 聞く」では、ディクテーション、基礎練習 (数字、親疎 (敬語)、音の変化) と主教材を別立てで授業を行っていたが、授業時間を考えると主教材に基礎練習を組み込めるように考えてもいいのかもしれない。1回で扱う教材が多すぎたため、終わらなく、宿題にして次回回収になってしまうこともあった。時間配分とともに、1回で扱う教材のボリュームも検討すべきであろう。また、主教材の順番にも検討の余地がある。

基礎練習で親疎 (敬語) や音変化を集中して学習することで聞くことへの意識が上がっていたように思える。学習者からも基礎練習が日常日本語を使う際にも役に立つという感想があった。特に音の変化の規則などは新鮮だったようである。

学期終了時アンケートをみると、授業の様々な練習を通して自分の弱いところが自覚でき、その部分を役に立ったと答えている学生が多かったように思う。また、日本語を聞く

ことへの意識が変わったという学生もいた。それがどのような意識なのか具体的に知りたい。アンケートを深く分析し、可能であれば、学生へのインタビューなども行いたい。

最後に、「J631 聞く」の評価は、期末試験 1 回のみで決まるので、学習者には相当のプレッシャーであろう。毎回、期末試験が妥当なものだったかを検討する必要がある。評価が C (60%~69%) で上のクラスへ上がった学生が 1 つ上のクラスで苦勞しているという話を聞くので、期末試験で初めて聞く問題の割合を高くするなどして、改善していく必要があるのではないかと考える。

## 注

1. 筑波大学留学生センター技能別クラスの一つである中級前期「聞く」のクラスの名称である
2. 筑波大学留学生センターがweb上で開設しているファイルダウンロードサイト（学内のみアクセス可能）である。教師はこのサイトを利用して、教材の電子ファイルや音声ファイルなどを学習者に配布することができる。学習者はダウンロード専用のIDとパスワードを入力してファイルをダウンロードし、それを使って自習や課題を行う。
3. 2011年度の「J631 聞く」は、3 クラス開講しており、筆者が2 クラス、平形裕紀子氏が1 クラス担当。教材は共同で作成。

## 参考文献

- 小林典子・フォード丹羽順子・高橋純子・藤本泉・三宅和子（1995）『わくわく文法リスニング99ワークシート』 凡人社
- 関裕子・田中孝始・石田麻実・酒井たか子・平形裕紀子・柳田しのぶ（2013）「中級から上級レベルにかけての数字の聞き取り練習-筑波大学留学生センター補講コース「聞く」における実践報告-」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 28号：185-204
- 筑波ランゲージグループ（1992）『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE VOLUME 3 : DRILLS』 凡人社

資料1 主教材例① 「トピック「電話」 タスクシート」(抜粋) 2011年9月 石田麻実・平形裕紀子作成

トピック③「電話」

★聞く前に

- \* 日本語で電話をしたことがありますか。
- \* 電話をしているときに困ったことがありますか。
- \* 電話での会話の聞き取りは、普通の会話の聞き取りより難しいですか。  
難しいと思う人はどんな点が難しいと思いますか。
- \* 電話であなたの名前を伝えるとき、相手の日本人にきちんと聞き取ってもらえますか。聞き取ってもらえないときはどうしたらいいでしょう。
- \* 電話で日本人の名前とその漢字がわからない時はどうしたらいいでしょう。

(中略)

★名前を聞き取る練習

日本人の名前は漢字で書くことが多いですが、同じ発音でも漢字が違ったり、同じ漢字でも読み方が違ったりすることがあります。

そういう時は漢字の説明から始めます。

電話の会話を聞いて、どんな名前でどんな漢字を使うか考えましょう。

<会話1>

1. タケモト アキラさんは、どんな字を書きますか。
2. 電話をかけた ヤマトさんはどんな字を書きますか。
3. ヤマトさんの伝言はどんなものですか。

\_\_\_\_\_さんへ 伝言

\_\_\_\_\_の \_\_\_\_\_さんから、

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_とのことです。

(中略)

★電話をして、メモを取る

リーさんがアルバイトに応募します。あなたがリーさんなら、自分のためにどのようなメモをとりますか。重要な情報は何でしょうか。  
メモを取りながら、会話を聞いてください。

<会話2>

<MEMO>

---



---



---



---

★重要な情報は何でしたか。

- ①
- ②
- ③
- ④

★重要な情報がメモできましたか。

★電話がよく聞き取れない場合、どうしますか。

→・聞き取れない場合は必ず聞き返しましょう！

・重要な情報はくり返して確認しましょう！

## 資料2 主教材例① トピック「電話」スクリプト

2011年4月 石田麻実・平形裕紀子作成

## 名前の聞き取り 会話1

A: もしもし。

B: はい、筑波総合経済研究所でございます。

A: あの、私、筑波大学の山元と申す者ですが、財務研究科のタケモトさんいらっしゃいますか。

B: タケモトは二人おりますが、どちらのタケモトでしょうか。

A: 竹本樹さんです。竹に日本の本と書く竹本に明るいという字を書く…

B: あ、はい、わかりました。少々お待ちください。

B: お待たせいたしました。申し訳ありません、竹本はただいま外出しております。

A: ああ、そうですか。では、ご伝言、お願いできないでしょうか。

B: はい、どうぞ。

A: えーと、筑波大学の山元から、4日午後の打ち合わせについて、場所を変えたいので、ご連絡ください、とお伝えください。

B: 4日午後ですね。はい、承知いたしました。あの、失礼ですがヤマモト様はどのような字を書かれますか。

A: ああ、富士山の山に、元気の元と書きます。

B: 元気の元の山元様ですね。わかりました。

A: では、よろしく願います。失礼します。

B: 失礼いたします。

## メモを取る 会話2

A: はい ホテルつくばです。

B: すみません、そちらの求人広告を拝見したんですが、ご担当の方、いらっしゃいますか。

A: はい。わたくしが担当の秋元です。

B: 私、リーと申しますが、まだアルバイトを募集していらっしゃいますか。

A: えー、アルバイトの募集ですね。はい、まだ募集しております。

リーさん、接客の経験はありますか？

B: はい。接客の経験は、少しですが、あります。

A: それでは、一度、履歴書を持って、面接に来ていただけますか。

B: はい。

A: それでは、6月1日の午後は、ご都合いかがでしょうか。

B: 一日ですね……。はい、大丈夫です。何時ぐらいがよろしいでしょうか。

A: 午後一時半ではいかがでしょうか。

B: 午後一時半ですね。大丈夫です。

A: 当ホテルの場所はご存知でしょうか。

B: つくば駅の近くでしょうか。

A: いいえ、研光学園駅のほうが近いです。駅から見えますので、すぐわかると思います。

B: 研光学園駅の近くですね。

A: はい。当ホテルにつきましたら、フロントでお名前をおっしゃっていただいて… あ、お名前をもう一度願います。

B: リーメイリンです。木曜日の木の下に子供の子を書いてリ、メイリンは「うめ」に「はやし」です。

A: うめは…

B: 木の右に毎日の毎を書きます。

A: ああ、わかりました。李（すもも）という字を書くリーさんですね。李梅様さん。

B: はい。

A: では、お名前をおっしゃっていただいて、秋元を呼んでください。

B: アキモトさん…。すみません、漢字を教えていただけますか？

A: はい。春夏秋冬の秋に元気の元という字です。

B: わかりました。当百得参するものは履歴書だけでよろしいでしょうか。

A: はい。履歴書だけで結構です。それでは当日お待ちしております。

B: どうぞよろしくお願いいたします。

資料3 主教材例②「健康と病気」タスクシート抜粋

『SFJ vol.3:DRILLS』L21, L22 の T&A を参考

2011 年 4 月 石田麻実・平形裕紀子作成

トピック③ 「健康と病気」

I. ヘルシー度チェック！

1) あなたはヘルシーな生活をしていますか。質問をきいて、○（はい）か、×（いいえ）で答えてください。

①（ ） ②（ ） ③（ ） ④（ ） ⑤（ ） ⑥（ ）

⑦（ ） ⑧（ ） ⑨（ ） ⑩（ ） ⑪（ ） ⑫（ ）

⇒ ○の数はいくつでしたか。

9～12 問題なし！

5～8 あなたはふつう

0～4 あなたはちょっと問題

◆あなたは心と体のためにどんなことをしていますか。

◆ストレス解消にどんなことをしていますか。

II. 日本人の寿命と死因について話しています。表を2つ完成させてください。

表1) 日本人の寿命

日本の（ ）		
	（ ）年 WHO調べ	
男性	（ ）歳	世界で（ ）
女性	（ ）歳	世界で（ ）
*女性の（ ）は（ ）年（ ）。		

表2) 日本人の死因別の死亡者数 (厚生労働省統計情報部『人口動態統計』より)

		第1位	第2位	第3位
1970 年	死因	①	②	③ 心臓病
	死亡者数	④ 人	119,977 人	⑤ 人
1990 年	死因	⑥	心臓病	⑦
	死亡者数	⑧ 人	人	121,944 人
2008 年	死因	⑨	⑩	⑪
	死亡者数	⑫ 人	181,928 人	⑬ 人

# 資料4 主教材例②「健康と病気」スクリプト抜粋

2011 月 4 月石田麻実・平形裕紀子作成 (I. は『SFJ vol. 3: DRILIS』L21, L22 の T&A を参考)

## トピック③「健康と病気」：スクリプト

### I. ヘルシー度チェック

- ①休日でも同じ時間に起きるようにしている。
- ②休日には、仕事や研究のことを考えないようにしている。
- ③コーラよりお茶や 100%天然ジュースを飲むようにしている。
- ④インターネットをあまりしすぎないように注意している。
- ⑤できるだけ色々な人と話すようにしている。
- ⑥バスや自転車には乗らないで、できるだけ歩くようにしている。
- ⑦ほぼ毎日食事は 3 食とっている。
- ⑧1 週間に一度以上はスポーツをするようにしている。
- ⑨ほぼ毎日 6 時間以上睡眠時間をとっている。
- ⑩お金のことはあまり考えないようにしている。
- ⑪年に一度は健康診断を受けるようにしている。
- ⑫自分のストレス解消法がある。

### II 日本人の死因

#### 1) 日本の平均寿命

- ①2010 年の WHO の調査で、日本の平均寿命は男性が 79.29 歳で世界第 4 位、女性が 86.05 歳で世界第 1 位と発表されました。
- ②日本人女性の平均寿命は 24 年連続トップです。

#### 2) 日本人の死因別の死亡者数

- ③一方で、日本人の死因は変化しています。
- ④1970 年は死因の 1 位が脳卒中で 181,315 人、2 位ががんで 119,977 人、3 位が心臓病で 89,411 人でした。
- ⑤しかし、次第に、がんと心臓病が増加し、反対に脳卒中が減少しました。
- ⑥1990 年の調査では、1 位ががんで 217,413 人、2 位が心臓病で 165,478 人、3 位が脳卒中で 121,944 人でした。
- ⑦そして、最新の 2008 年の調査でも、がんの死亡者数は大幅に増加し、342,963 人で最多、次に心臓病が 181,928 人、脳卒中が 127,023 人と続きました。